

## A Study on History of Football in Britain 7

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/335">http://hdl.handle.net/2297/335</a>

# 英国におけるフットボールの歴史に関する研究(7)

## —— 王政回復と18世紀のフットボール ——

秦 修 司

### A Study on History of Football in Britain (VII) —— Restriction and Eighteenth Century Football ——

Shuji HATA

#### 緒 言

英国におけるフットボールの歴史において、スチュアート朝のチャールズ2世による正政回復(1660)がメリー・イングランドの回復を意味する訳ではなかった。歴史家の Treveryan が「ピューリタニの短所が彼等の資質とともに残った。彼等ピューリタンの悲しむべき安息日はイニングランド人の日曜日となった。刻下の熱情と国策が結びついて、あらゆるものをアングリア人に回復した時においてできえ、アングリアの人達はその際であれば彼等の楽しみと気晴しの日を回復するのに充分であったわずかな努力もなそうとせず、禁欲的な理想に達するまでは故意にとりやめられた週一度の楽しみ犠牲を払い続けたのである<sup>1)</sup>。」と述べているように、特に日曜日におけるメリー・イニングランドの回復を決して意味するものではなかった。しかし必ずしも、すべての人々が日曜日の娯楽・スポーツの楽しみを断念したのではない。娯楽・スポーツの日としての日曜日の伝統はあまり制圧を受けていない地域社会では容易に消失することがなかったのである。Samuel Speed の *Fragmenta Carcerig ; or, the King's Bench Scuffle* (1675) の中で、田舎の者が牢獄の暴動中に、向って来るすべての者と争っているが、そこでは、

だがこの田舎者は逞しく、  
彼等はまだひとしきり殴りあったが、  
どんな技を使っても、彼はへこたれなかった。  
一同の面前で認められたことだが、  
貴賤貧富を問わず、  
彼のように日曜にボールをもぎとったり、  
蹴ったりできる者はいなかった<sup>2)</sup>。

とあるように、田舎では日曜日がフットボールの日であったことがはっきりとわかる。

従って、本研究では、日曜日の娯楽・スポーツ、特に日曜日のフットボールが認められてはいなかったが、地域社会においてはフットボールが消失することのなかったフチュアート朝の王政回復時代(1660—1685)と18世紀におけるフットボールについて論述していく。

#### 本 論

あまり頻繁ではないが、安息日を守らずスポーツが行われたが、王政回復後の約50年は安息日にフットボールのゲームが行われた。それらの多くは記録にないが、記録にあるものは安息日にフットボールのゲームが行われた典型的な例と看做することができる。1668年7月21日、Yorkshire の Richmond において Whorlton—in—Cleaveland の男5名と Thorp の男5名が主日の礼拝の時間にフットボールを行ったかどで告訴され、四季裁判所に出庭した<sup>3)</sup>。又、

1669年1月18日, Burtsett の自由農民の9名が同じように告訴され, 四季裁判所に出廷した<sup>4)</sup>。Lancashire の Colne における1713年の教区の議事録に礼拝の時間にフットボールをした連中が出廷したことの言及が記入されている。

礼拝の時間にフットボールをしているところを見つけた連中のために私が治安判事に納めた負担金……1シリング<sup>5)</sup>。

1722年12月1日の Jt. Jame's Journal に記述されている Cornwall の East Looe 近くの事件から, 会衆全員が時々, 教会へ礼拝に行くよりはフットボールを行うを選んだことがあったことが推測される。

Eastlow から伝えられるところでは, 一週間前の日曜日, 恒例の礼拝の時間に隣りの村に猛烈な嵐が吹きおこり, 教会堂の尖塔の相当部分が吹きとばされた。教区民らが会堂内に居たら大被害を被ったところであるが, 彼等はたまたま幸運にもフットボールの試合をしており, おそらくはそのために彼等の命は助かったのである<sup>6)</sup>。

1617年以後のある時, Nofork の East Rudham の Seller なる人物がフットボールのゲームで脚の骨を折ったため寝たきりになったあげく不慮の死を遂げている。

Sir Roger は Raynham に立派な屋敷を構ようとして祖父の Sir Nathaniel Bacon の勧めに従って屋敷内の石を Coxford Abbey から取って来ようとしてその当時まで建っていたその教会堂を壊し始めた。そして尖塔からとりかかったが, 最初の石 (といわれている) が落ちしなに1人の男の脚を折り, そのことに彼等はいささか驚いた。しかし, 彼等はそれにも懲りず作業を続け尖塔をひっくり返ると近くの家落ちてその家をうち壊しフットボールで脚の骨を折ったためにびっこになって寝ていた Mr.Seller なる人物を殺害したが, 他の人々は肝をつぶして逃げ出し, 命拾をした<sup>7)</sup>。

しかし, この場合は, Mr. Seller なる人物が日曜日にフットボールを行っかは不明である。

East Looe においてはこの時まで, 日曜日のフットボールに対する法的訴訟はほとんど無くなっていった。聖職者は, 次の2つの記録された例が示すように, 時々, 日曜日のフットボールに対処する際に, 他のより巧妙な方法をもってしている。それら方法の1つは, 1672年, Cumberland の Ousky の聖職者である Rev. Thowas Robinson に関係するものであるが, 彼は日曜日の娯楽を廃止する代りに, 害のない方向に向けていった。彼は日曜日の午後の祈りのあと彼が指導している教区民たちと ale-house に行き1ペニーを使い, そのあと彼は若い衆にフットボールや他の田舎の娯楽を用意した。

日曜日の午後の祈りの後で教区の主だった人々と一緒に隣りの居酒屋へ行くのが彼の変わらぬ習慣であったが, そこでは各々が1ペニーを, そう1ペニーだけを使った。それがすむと彼は若い衆にフットボールや他の田舎の娯楽をさせた<sup>8)</sup>。

このやり方は, その状況に対処するのに望ましいものであった。しかし, そのことを1794年に記録にとどめた Cumberland の歴史家の Hutchinson は不満であった。というこは, それはただ単に James 1 世のスポーツ宣言の結果の1つにしか過ぎなかったからである。

スコットランドにおいても1つの出来事があった。1700年, Stirling の Kippen の教区に新しく任命された Rev. Michael Potter は教区に着任すると, いまだ教区民たちの間で日曜日の午後にフットボールを行うという昔の習慣が広がっていることがわかった。Potter は上述の Rev. Thomas Robinson とは異って, 日曜日のフットボールには断固として反対であり, それを廃止するよう決断した。そのために, 彼は日曜日の午後, プレーヤーたちに自分もフットボールのゲームに参加してよいかたずねた。プレーヤーたちはこれに対して当然のことなが

ら、いくらか不意をうたれて沈黙してしまった。Potterはプレーヤーたちに、祈りのあとゲームを始めるのが正当であるとして、自分の帽子を脱いで祈りを始めた。彼が祈りを終えるまでにプレーヤーたちはすべてこっそりと立ち去ってしまった。そしてこれ以後、日曜日にフットボールを行うという慣行が再開されることは決してなかったと言われている<sup>9)</sup>。

1722年以後は日曜日のフットボールについては全く告げられない。日曜日のフットボールは時々は行われており、多分にしばしば行われていたのは疑いが無いが、仮にそうであったとしても、日曜日のフットボールを廃する試みはほとんどなされなかった。16世紀後半に始まり、150年以上も続いた日曜日のフットボールについての激しい論争は18世紀の初めには徐々に消先していった。English Sundayが首尾よく確立され、日曜日の行動の水準全般が向上したので、激情もあまり激しくなくなった。従ってイングランドの人々は日曜日のフットボールを是認することはなかったかもしれないが、日曜日のフットボールに対して訴訟を起こすことはなかった。前述で引用された2人の聖職者の行為は、多分に、日曜日のフットボールに対する新しい心構えの典型であり、仮に日曜日にフットボールが行われたならば、それに反対する者は、2人の聖職と同じような巧妙な方法で、その状況に対処したであろう。

フットボールが共和制以前より王政回復後にはポピュラーでなかったという証拠はない。18世紀の間、学校を除けばフットボールはほとんど消失したという見方は誤りである。18世紀にむけるフットボールについて残存している記録はほとんどない。何故ならば、フットボールについてはピューリタニズムの初期程はあまり論争のある問題でなく、フットボールについては特別の注意が払われていなかったからである。記録が多くあるということはフットボールが至る所で、そして熱心に行われていたということを示している。18世紀の終りに向けて市当

局が再度、街路でのフットボールは不法妨害であるとしてその頂点が19世紀の間に警察を組織化し、実際の権力を官憲に与えた時に達したフットボールの運動が開始されるまでフットボールのゲームはいまだ非合法であったけれどもどんな類の反対もなかったようである。しかし、人々の多くがフットボールに反対したのは疑いが無い。1696年、Dartmouth 砦の司令官であった Nicholas Roope は国務大臣の William Trumbull の注意をフットボールの試合に人々がよく集まることに向けさせるのが自分の義務であると考え、彼はフットボールは阻止すべき悪徳であるとして、フットボールを阻止した<sup>10)</sup>。市当局が訴訟を起こしたという事実は勢いある世論が強力な役割を果たしたことを示している。しかし、この時代の出版物において述べられている規解は、その大部分がフットボールを条件つきで是認している。

Chester の司教である John H. Wilkins は An Essay towards a Real Character and a Philosophical Language (1688) の中において、フットボールのゲームを力や技術が要求されるレクリエーションとして称賛している。<sup>11)</sup>スコットランドの医者である George Cheyne は、An Essay of Health and Long Life (1724) において、「腕や足腰の弱い者は毎日2、3時間テニス又はフットボールをするのがよい。」とフットボールを奨励している<sup>12)</sup>。これは Mulcaster の時代と異って、身体運動それ自体が望ましいとする考えが一般的になっていたからである。Locke は、Some Thoughts concerning Education (1693) において、少年たちが楽しんで行っているゲームすべてはその効果において正当化できるものであり、かつ有益であるとす原則を強調した<sup>13)</sup>。Locke はフットボールについてははっきりと述べていないが、フットボールを念頭においていたことは確かである。Borlase は1754年に Cornwall のハーリングについて著述し、好意的な見解を述べている。

若者の胸中を掻き立て、そしてこのよう

に身体のすべての機能を全般的に使う必要のある娯楽は、身体を柔軟にし強化するためには大いに利用しない訳にはいかない<sup>14)</sup>。

17世紀の終り、そして18世紀の初めに何度も版を重ねた *Angliae Notitia, or the Present State of England*, そして *Magnae Britannide Notitia: or the Present State of Great Britain* において Edward Chamberlayne はイングランドとスコットランドにおけるフットボールの流行を立証し、フットボールのゲームについて言及している。イングランドについて言及している1694年版では次のような注釈がある。

土地っ子たちは長時間の辛い労働に耐える。だから12時間の辛い労働のあとで、夕方にはフットボールやスツール・ボールやクリケットをしに行くのである……<sup>15)</sup>。

Chamberlayne はスコットランドについては、1728年のスコットランド版の初版においてフットボールとゴルフが一般大衆が極めて熱中して行ったスポーツであったとしている<sup>16)</sup>。彼は *Angliae Notitia, or the Present of England* の1669年の版でロンドンにおける街路でのフットボールを、「そして市民にとってはフットボールは市中においては粗野、粗暴かつ野蛮である。」<sup>17)</sup>として、フットボールを非難した。

Sir William Davenant はすでに10年程前、1655年5月23日に著書、*Entertainment at Rutland House* において外国人の見地からフットボールについて述べている。彼はその中でフットボールは街路では市民にとってあまり都合のよいものではないが、それは雄鶏投げのような勇ましい遊戯と同じようにイングランド人の勇気を示すものであると微妙な風刺をもってパリ人に言及している。

もう無事に引き下がりたいところですが、お国の勇ましい競技が数ある中でもマッドボールと呼ばれる競技のおかげでどうやら立往生しています。この競技たるや——失礼ながら——街路では特に

*Crooked Lane* のような曲がりくねった道路では市民にとってあまり都合のよいものとは思えません。しかし、それは雄鶏投げのようなあなた方の勇ましい遊戯と同じようにあなた方の勇気を示すものです<sup>18)</sup>。

興味深いことに Chamberlayne と同時代のフットボールについての外国人の見解が3つある。1つはフランス人のものであり、他は2つともスイス人のものである。フランス人の Henri Misson は著書、*Memories et Observations faites par un Voyageur* (1698) において、Davenant の劇中の架空の同国人とは異って、フットボールに好意的な印象を持っておりフットボールを「有益かつ魅力的な運動」と述べている。

冬にはフットボールは有益かつ魅力的な運動である。それは頭ぐらいの大きさで、空気を入れてふくらました革のボールである。ボールをうまくとらえる者が、それを足で操って、路上をあちこちと転がしていく。他の知識など全く不要である<sup>19)</sup>。

しかし、2人のスイス人、つまり Bèat Ludwig de Murat と Cèsar de Saussure はフットボールに対し好意的でなかった。Bèat Ludwig de Murat はフットボールについて次のように述べている。

時々、彼等（民衆）は、はた迷惑なそして傲慢無礼さの混じった仕方でも楽しむ。それは彼等が街路沿いに足を使ってボールを推し進め、家々の窓ガラスや道々行き合わせた四輪馬車の窓ガラスを割って面白がる場合と同様である<sup>20)</sup>。

両人ともそれぞれ1694—5年、1725年すぐあとに、ロンドン訪問中に家ばかりでなく馬車の窓がフットボール選手によって破損されるのを目撃しておりフットボールのゲームを街路では極めて不都合であるとしている。de Saussure は、又、通行人がフットボール選手によって殴り倒される危険性があることも言及している<sup>21)</sup>。

ロンドン、チェスターそして他の場所での街

路のフットボールが14世紀の初めから官憲によって訴訟を起こさせてきたことについてはすでに考察してきた<sup>22)</sup>。事実、街路でのフットボールについての最初の明瞭な言及は1314年4月13日、ロンドン市長のNicholas de Farndoneによって発せられたフットボールを禁止する布告であった。17世紀後半にはフットボールのゲームは当時の町ではほとんどなされなかったに違いないと考えられる程、フットボールに対してなされた訴訟がない。王政回復後すぐに何故、市当局がフットボールに対して訴訟を起こさなかったか説明するのは容易でない。しかしながら、18世紀には、スコットランドにおいてイングランドと同様に様々な場所でフットボールを弾圧する試みの復活をみた。

そのようなフットボールを弾圧する試みの1つは、町議会がFastern's E'enの年1回のゲームは、「それによって老いも若きも彼等の命を落とすことが時折あるので、古くからの住民に大なる侵害となる」という結論に達し、「即刻そして将来に渡ってそのゲームを禁止する」<sup>23)</sup>と満場一致で決定した1704年のJedburghにおいてなされた。この試みが、どれ程、効果的であったかは、2年後の1706年にFlesher's Corporationの同業者がメンバーの何名かに役等が、「フットボールで取っ組みあいをした」というかどで罰金を科した<sup>24)</sup>という事実から判断されるかもしれない。このことは興味深い、小売商が、1546年にPerthで鍛冶業がなしたよう<sup>25)</sup>に、会社と協力してフットボールを弾圧するよう試みたことを示している。しかし、彼等のフットボール弾圧の尽力は無駄であった。フットボールのゲームは19世紀の間、それがJedburghにおいてすべてのFastern's E'enの日にいまだに行われているフットボールと同じ位荒っぽいhaud-ballのゲームに取って代るまで行われていた。

個人によるフットボール弾圧の試みがなされたのであるが、この場合、1724年、BerwickのDunsにおいて自治都市の市参事会員である

John Greyが慣行となっている住民の間での流血沙汰を避けるためにFastern's E'enに選手たちを呼び集めるために用いた太鼓を没収した<sup>26)</sup>。不運にも、これによって大衆を怒らせてしまいその日、フットボールと同様、暴動が生じた<sup>27)</sup>。

スコットランドと同様、同じころイングランドにおいても、様々な場所でフットボールに対して訴訟がなされた。Worcesterにおいて、「触れ役がフットボールを蹴ることを違法として禁じたのを賞して、2シリング6ペンスが支給された」ことが記録されているが、市当局はそれについては、多分に本気ではないものであるが、彼等のフットボールに対する不賛同を示すための処置が講じられたのである<sup>28)</sup>。1745年、Louthにおいて同じように触れ役が雇用され、その結果、数多くのフットボールの選手が罰金を科せられた<sup>29)</sup>。1790年ごろ、Kingston-on-Thamesにおいて何名かが、フットボールにおいて乱暴な行為をなしたかどで告訴されたが、彼等は、昔デンマークに勝利した記念にデンマークの指導者の生首を街路で蹴りまわして祝っていたと弁明し、その行為を正当化して、無罪となった<sup>30)</sup>。この場合、治安判事はDunsの市参事会員であるGrey程には状況を深刻にはとっていないのは確かであり、Kingston-on-Thamesのフットボールはスコットランドより穏やかであったに違いない。しかし、Kingston-on-Thamesにおいてできえ、フットボールの伝統が充分確立しており、結局はフットボールを廃止するのは容易でなかった。というのは、フットボールのゲームは、最終的には1866年まで廃止されなかったからである。つまり、1866年2月13日がフットボールがKingston-on-Thamesの街路で行われるのが認められた最後のShrove Tuesdayであった。その時、市長は競技に関与することを拒み、慣例どおりに始球式をするのを控えた。それに先立つ何年かの間に起こった暴動のために、町議会は1866年3月1日の会合で次の決議を可決した。

毎年、慣例として Shrove Tuesday に当町の公道において行われおるフットボールなる競技を考慮し、この件に関して妥当と思われる措置をとるべきこと<sup>31)</sup>。

この決議に続いて、議会は次の声明を発した。

当局は適当なる遊園地を用意せしがフットボールなる競技を Shrove Tuesday に当町の公道において行うことの許さざれること、これを実施せよとの厳命を警察が受けおることをここに告知するものなり<sup>32)</sup>。

法と秩序の権力とフットボールとの間で長期に及ぶ闘争がなされたイングランドのもう1つの町は Derby であった。Derby ではフットボールのゲームがしっかりと確立しており、住民たちに頑くなくゲームに執着していた。Derby におけるフットボールを廃止する試みは、最初、1731年に市長の Isaac Borrow によって開始され、ほとんど定期的に継続されたが、その試みは1847年になるまで、そして騒擾取締法（The Riot Act）<sup>33)</sup>が生まれ Derby の町に騎兵隊が導入された後でしか成功しなかった。

他の数多くの場所では会社がフットボールを廃止したいと思っていたに違いないが、それを試みて失敗した場所があったのは疑いがない。存在する記録から18世紀に、それが残っている Alnwick (Northumberland), Ashbourne (Derbyshire), Workington (Cumberland), Bromfield (Cumberland), Hawick (Roxburgh), Inversk (Midlothian), Kirkmichael (Perth), そして Scone (Perth) においてフットボールが行われていたことがわかる。これらのうち Scone のゲームだけが18世紀に消滅した。他のいくつかの場所において、フットボールに対して取られた積極的な措置が1800年以前に始まっていたとするのが適切である。

これらの場所がすべてスコットランドやイングランドの北部地方であることがわかる。この時代、mass football は激しやすいイングランドの北部の人々の間ではまだ人気があったけれども、イングランドの南部においてはフットボ

ールの魅力が失われていたようである。フットボールの地方の形態が発達し続けた Cornwall, South Wales そして East Anglia は、この一般論から例外としなければならない。18世紀に生じたフットボールのゲームのパターンはその様々な様子において、様々な地方で行われているフットボールまで遡ることができる。

歴史に残る最も有名なフットボールの暴動の1つが、Holland Fen の包囲時代の1768年、Lincolnshire において生じた。

7月1日、約200名の暴徒が湿地でフットボールを投げあげ、およそ2時間に渡って競技をしたが、1隊の騎兵、Boston の紳士数名と治安官4名が暴徒4、5名を逮捕し、Spalding 監獄に収容した。Wyberton の Dr. Shaw は3名の女性暴徒を釈放し、男たちも保釈金を積んで仮出所を認められた。15日にはまたもボールが投げあげられたが、彼等にそれを止めさせるようにする者は誰一人居なかった……。29日にも何の抵抗も受けずに三度、ボールが投げあげられた<sup>34)</sup>。

この時点までは反フットボールの勢力が勝利したと読むことができる。がしかし、それ以上の訴訟はなされなかったようである。暴徒たちは保釈金を積んで釈放され、3名の女性暴徒も放免された。

昔の English Sunday の衰退にかかわらず、田舎の浮かれ騒ぎは適当な時になされており、昔のスポーツや娯楽は流行していた。Joseph Addison の従兄である Eustace Budgell は、The Spectator (1711) において地方の徹夜祭について記述しているが、彼はフットボールを催し物の1つとしている。ついでに、彼は、彼が生徒であった時、自分自身がひとかどのフットボールの選手であったことをそれとなくほめかしている。

私は格闘者たち（棍棒使いたち）をそれ以上見るのを止めて緑地の反対側で行われているフットボールの試合に目を移した。

そこでは Tom Short が大活躍したために彼は次の週まで独り者のままではいられまいというのが大方の意見のようであった。かく申す私も何度となく試合したことがあるので本来ならこの競技をもっと良い間間見ていられるところであった<sup>35)</sup>。

又、フットボールは、例えば次のような Lanchashire の生活についてのバラッドのように、田舎の光景の一部としてしばしば言及されている。

楽しいスポーツやフットボールをしている時に、  
彼等は陽気でご機嫌になり、  
思いきり金を賭けて、  
ふさぎの虫を吹きとばす<sup>36)</sup>。

又は、田舎の陽気な歌、And to each pretty Lass we will give a Green Gown の中でフットボールを田舎で人気あるスポーツという馴染みの役割をもつものとして描いている。

こうしておれたちゃ生涯浮かれ騒いで客中のどんちゃん騒ぎでないが、楽しくトラップ・ボールやルールズやバーリー・ブレイク・ランをして遊ぶ。

ゴルフやフットボールをして、こういう無害なスポーツがすんだら、笑って寝そべろう<sup>37)</sup>。

それは理想化された構図であるのはもちろんであるが、事実に基づいたものである。とにかくイングランドにおいては、地方のフットボールは都市のフットボールのような治安妨害の源ではなかったという印象がもたれる。

この段階において、これらのフットボールのゲームが一定のチームの間で行われていたか、あるいは若干の報告が示唆するように目的のない乱闘に過ぎなかったかについての疑問が生ずる。初期のフットボールの数多くは、多分に、極めて秩序のないものであった。しかし、様々な教区、村、町そして州でさえ、それを代表するチームの間でフットボールが行われたという証拠が18世紀に蓄積し始めている。1579年、ケンブリッジ大学の代表と Chesterton 村の代表

との間でフットボールの試合が行われている<sup>38)</sup>。そのように教区と教区、村と村、町と町との間での試合が18世紀に一般的になり始めており、その時に村と村間の対抗のフットボールの広大な網状組織の基礎が築かれていったのである。

他方、大学のフットボールは、多分に、そのような粗野なスポーツを行うには大学生があまりにも洗練化されたため、18世紀の間に衰退していったようである。オックスフォード大学では、ほとんどすべてのゲームを禁止した1636年のロード法の下にフットボールのゲームは禁止された。王政回復後でさえ、1666年に学生4名がフットボールのゲーム (ludus pilae pedalis) に夢中になったために停学に処された<sup>39)</sup>という事実からわかるように、ロード法は厳しく施行されていた。しかし、その後ロード法が破られたことについての言及がないことは、大学当局がフットボールに気が付かなかったか又はフットボールはもはやあまり行われていなかったことを示している。その時代の全般的な気質はフットボールはあまり行われなかったことを示唆している。大学生はフットボールが19世紀に復活し頻繁に行われるようになるまでフットボールに再び関心を持ち始めることはなかったし、フットボールが復活したその時でさえ、しばらくの間、大多数の人々によって不快感をもって見られた。

ケンブリッジ大学の場合もオックスフォード大学と同様であったことは疑いがない。ケンブリッジ大学当局が発した次の法令から推測できるように、大学当局が強い異議を申し立てた1679年12月8日における Magdalene College のある種のフットボールの祭りの記録がある。

一方、近年風紀を乱す様々なよしまなる慣習が一部のふしだらなる学生の癩癩と傲慢とによって本学寮に導入され……いかなる学生も Michaelmas 当日 (9月29日)、又はその前後にはいつ何時たりとも渴きをいやすために食堂にて飲む学寮のビール又



はエール以上の食事ないし軽食をフットボールを理由として供し、又は、受くべからざること……。また特に2年生と1年生とが一緒になって飲酒をなし金銭を消費するという最も恥すべき慣習又はフットボールの際に演説をなすと否にかかわらず完全に廃し抑圧すべきこと<sup>40</sup>。

これは Michaelmas のフットボールやそれに付随する祝典は教官談話室がフットボールを廃するよりはむしろコントロールするように求めた充分確立した習慣であったことを明らかにする。というのは、フットボールのゲーム自体を禁止するどんな示唆もないからである。このあと時を経ずしてフットボールのゲームは自然に消滅したか、又は、とにかく消滅しかかったに違いなく、オックスフォード大学のように19世紀までフットボールが復活することはなかった。18世紀の大学生は自分たちにまったく労力を要せずそして競馬や闘鶏のように賭けを行うことができたスポーツに、より関心があったようである。彼等はフットボール賭博を歓迎したかもしれないが、フットボールそれ自体には関心がなかった。

アイルランドでは、状況が異っていたかもしれない。1780年ごろ、ダブリンの Trinity College にフットボールの論説があるが、それはフットボールが学寮の公園で毎晩行われていたとある。

Ned Lysaght が Trinity College に在学していた時(1870年ごろ)、特待生は、自分たちは一般学生よりも格が上だと思っていた。そして当時、毎夕学寮の公園で行われていたフットボール競技に参加するなどもちろん潔しとしなかった。たまたま c-lf-ed という名の一般学生が見栄っ張りの特待生との付き合い、もちろんフットボールのごとにもものなどしなかったのであるが、ある日の夕方、やってやろうかという気になった。ところが彼が始めるや否や彼のこれまでの愚かな振舞いを腹に据えかねていた仲

間の学生（一般学生）の数人がやがて彼のかかとをかつ払い、その場に居あわせた人々は大いに溜飲を下げたが c-lf-l-d をその相棒は口惜しがることこの上なかった<sup>41</sup>。

この場合でさえ、フットボールは一般学生によってだけしか行われていない。裕福な、又は、貴族の特待生はフットボールを低俗なスポーツと看做して行わなかった。ここでの社会的な差があるのは明瞭であり、多分に、この時代でのフットボールに対する明確な一般的心構えを表わしている。当時の風刺文の言葉に次のようにあるのでスマートな若者の間ではフットボールはもはや行われなかったことが推測されるかもしれない。

c-lf-l-d 君……お願いだ。もうフットボールはやめてくれ。この気晴しはあまりにも低俗で疲れもするし、荒っぽい近頃の君の振舞いを続けるなら続けたまえ。そうすれば、間もなくたっぷり蹴られること請け合いだ。<sup>42</sup>

これらフットボールに対する反対は学校にはあてはまらなかった。フットボールのゲームは裕福で貴族出身の者が在学する限り、彼等の中で継続して行われた。1500年より前の学校のフットボールについては何も記録がない<sup>43</sup>。1500年から1700年の間ではフットボールが広範に行われていたことは確かであるが、それについての記録はほとんどなかった。18世紀になると彼のタイプの学校ではフットボールが盛んに行われていた証拠があると同様、イートン校や他のパブリック・スクールにおけるゲームについての最初の言及が表われる。

1712年7月16日付の The Spectator 誌において Richard Steel が学校間の対抗試合について初めて言及している。

教区や学校においては名誉欲がいまだに通用している。フットボールや闘鶏の季節には、これら小共和国はお互いに対する国民的憎悪を再び燃えあがらせる。<sup>44</sup>

Steel は、多分に、特に Shrovetide に行き渡っていた教区間の対抗試合に加わった村の学校、又は、地方のグラマー・スクールについて述べている。寄宿制学校においては、フットボールのゲームは校内で行われていたに違いなく——19世紀までどんな類の対外試合はなかった——従って、各々の学校はその学校独自のフットボールを発達させていった。その最初はイートン校においてである。Thomas Gray は1747年発行された Ode to Eton College において、Gray の詩の第三連の末尾の三行にまぎれもなくフットボールと思われるものについての言及がある。

What idle Progeny succeed  
To chase the rolling Circle's Speed,  
Or urge the flying Ball? <sup>45)</sup>

(怠情なる子孫にして速やかに転がる球体を追い、  
あるいはボールを駆って、空に舞わせる  
ことを  
よくなし得る者があろうか)

ここではどのような類のゲームが意図されているか不明である。それは現在のイートンの Field Game の先駆であったかもしれない。ただ単にクリケットについての言及であったかもしれない。しかし、2、3年後の1766年にフットボールはその当時イートン校でポピュラーであった他の33のゲームとともに目録に掲載されている<sup>46)</sup>。これらのうちに Scrambling Wall があるが、イートン校では Wall が1717年に建設されたので、それは現在の Wall Game であるかもしれない<sup>47)</sup>。Scrambling Wall と Wall Game が同一であると認められるとすれば、これは極めて特徴的で特殊な類のフットボールであるという歴史が、1841年より以前の公式の記録にはないが、200年は遡る<sup>48)</sup>。ラグビー校のフットボールの歴史において最初の競技場は1749年に得られたので<sup>49)</sup>、フットボールはそこですぐに行われたことを確かめることができるが、その事実については、1803年以前にはまっ

たく述べられていない<sup>50)</sup>。ウエストミンスター校を1749年に卒業し、クリケットとフットボールの功績について語っている詩人、Cowper の書簡からこの時代、ウエストミンスター校においてフットボールが行われていたことがわかる。

少年のころ、私はクリケットとフットボールに長じていましたが、その道の活躍で獲得した名声は忘れられて久しくなりますし、その後どんなことについても自分が異彩を放ったという記憶はありません<sup>51)</sup>。

チャーターハウス校は18世紀に回廊においてその学校独自のフットボールを発達させた。これは1794年にその起源が始まる Charterhouse Song において初めて言及されている。

I challenge all the men alive to say they  
e'er were gladder  
Than boys all striving who should  
Kick most wind out of the bladder. <sup>52)</sup>

ハーロー校やシュルーズベリー校においても同じようなことが進行していたこと当然のことながら考えられる。

フットボールの隠喩は、以前のように、文学において用いられた。フットボールからの類推は会衆又はその読者に要点を印象づけるし、作家、又は、講演者を教化する効果的な方法であった。1672年にロンドンで刊行された A Letter from Dr. Robert wild to his Friend Mr. J. J. Upon Occasion of his Majesty's Declaration for Liberty of Conscience の中で、1622年に職を剝奪された聖職者の1人である Wild はフットボールの用語を神学上の論争に用いている。

国王陛下が(陛下に神の御加護あれ)我々の聖書をお認め下さいますように。我々には10万人の小売商人や農夫がおり、(我々の聖職者をして我等のゴールの傍らに立ってこれを守らせしめ、一撃を加えることはなからしめよ)、論争において同数の托鉢修道士や修道士を取ってわたりあわんとす。そして彼等が選ぶ如何なる論点をも、(それに

ついで彼等のはかつて Smith field を痛い目に会わせたが) フットボールたらしめよ<sup>53)</sup>。ここでは聖職者がゴールを守っていると推測され、その論争は現実の生活で様々な職種の者たちがしばしば行ってきたに違いない試合において小売商人や農夫が托鉢修道士、又は、修道士と奪い合ったボールである。この類の比喻のもう1つの例は1735年3月の the London Magazine の中に見られるが、そこではフットボールに関する長い詩がフットボールと嵐に翻弄されている船との比較を詳細になしており、フットボールに関して人間の運命の奇妙な移り変りを例証している。

川がにわかにか氷して、飾り鉄を打った車輪がその面を走り、以前はそびえる商船を浮かべたのだが、猫が歩きフットボールが転がる場所となる。そんな時に若者は仲間にいどんで広々とした氷原でフットボールを行う。戦闘隊形を整えて彼等は打って出で、各々が喜んで自分の真価を示そうとする。彼等は喚声をあげて臆病者の勇気を奮い起こさせ、がらんがらんという勇ましい音が彼等を戦いへと駆り立てる。

すると彼等は味方の旗印の下へと集まり敏捷なフットボールは広々とした空をとびまわる。彼等は球を蹴り、転がしながら大喚声をあげ、彼等のしわがれた叫び声は天空をつんざく。荒海に浮かぶ船はながらに、しっかりと及を外被に納めたフットボールは宙に舞いあがったかと思うと、今度は突然地面に落ちてくる。長き間、互いに譲らず戦いを続けるが遂に一方が優勢になる。勝利を占めるのは一方だけだからだ。勝利を占めると一同寒気を避けて引き退がり、心地よい火を囲んで群がる。さあ、フットボールのもたらす地上の物事の不可避の変化や人間の運命の数奇な有為転変を示す象徴を学び給え……。

そのように敏捷なフットボールは、時にはひゅうと風をきって宙に舞い上がり、時

には地面を転がる。船は数々の変化を乗り越えて進んでいき、やがて空であったものは空に終わることになる<sup>54)</sup>。

これはフットボールを取扱っている最初の完全な詩の1つであり、初めてフットボール自体が詩歌の適当な題材として看做されるようになったことを示している。18世紀にはフットボールを取り扱った詩歌があるが、それはフットボールのゲーム自体の熱を伝える試みをしている。1720年にダブリンで刊行された Mathew Concane の A Match at Football ; A Poem, In the Three Cantos では、模擬の英雄的詩歌で Lusk と Swords の仇敵にある町の間でのフットボールの試合を祝っている。又、付随的に競技についての多くの興味深い詳細事を与えている。

麗しの Lusk の闘士諸君よ。Soads の闘士諸君よ。

領主の贈物なるこのボールをよく見給え。

外見は若い雄牛の皮を三枚、皮ひもでしっかりとつなぎ合わせたものだが、

最上等の干草が中に隠されていて、ボールを堅くて軽いものになっている。

諸君はこれをめぐって争う。交互にボールを

相手方のゴールに造そうと勇ましく戦うのだろう。

出撃の門が二つ、芝生の端に立っている。一つはここ、もう一つは向こう側に見える。

Soads の諸君はあ門を、相手方の諸君はこの門を守れ、

用心深い考には名声が、怠慢な者には恥辱が待っている。

一人が声をかけてボールを空高く投げ上げ、

闘士たちは群がってボールの落ちてくるのを熱心に待つ。

最初に Felim がボールを捉え、手に持ってそれらが柔いを感じた。  
それから突然一撃を加えて宙に高く舞い上がらせた。  
それが滑らかにかつ速やかにとんでいき、反対側の Dick が受けとめるのを見た。  
巧みに蹴られたボールはすさまじい勢いでとんでいき、  
とんでいった。そこで皆のしている中で、待ってましたとばかり Daniel が飛球をとらえ、  
得意満面、大喜びで歓迎すべき分捕品を両腕に抱えた。そしてまっしぐらに走っていった。  
元気よく大股に走って野原の半分を横切った。  
するとその時、敵の全員がこの若者を取り囲んで突進を止める。  
彼等はぐいぐいと引っ張る。そこで彼を助けようと  
手足の強い Darby とすばしこい John がかけつける。  
並々ならぬ熱意に燃える Paddy と、  
選り抜きの Daniel は他の連中が引き下がっていると、  
時には腕と腕を、腿に腿をからませる。  
二人とも、時には振り回し、時には手足をからませ、  
時には激しく跳ねて、それぞれ獐猛な相手を地面から持ちあげる。  
遂に FLORA は、恐ろしい争いを見て、恋人の運命を気遣う余りに震えおののく。  
Daniel の片脚のまわりは、(人の目には見えないが)、  
9本の草が巧みな織柄をなす。  
何と小さな原因から、われわれの喜びや悲しみが、  
愉楽や苦痛が、苦悩や安堵が生まれるこ

とだろう。

相手に絡まれた若者は、片脚の自由を奪われ、  
片手の動きを抑えられて、辛うじて立っているようだ。  
だが彼は、長いこと争って得たボールをしっかりと抱え、  
不運にも倒れるまで腕から落とさなかった。<sup>55)</sup>

1673年の有名な歌はフットボールの直喩を用いている。

ようこそ、心配は捨て去ろう。  
それぞれが陽気に遊ぶ用意をしよう。  
陰謀家な人んぞはボールのように蹴っとばせ、  
転んで首の骨でも折るがいのさ。  
忠義なわしらが王様のために祈る間は、  
王様は平和に豊かに治めなさろう。さあ、  
歌おうぜ<sup>56)</sup>。

フットボールを何か軽蔑すべきものとして取り扱う考え方は14世紀以後一般的に用いられてきたが、その考えは終りに達していた。過度なまでにフットボールを軽蔑する傾向は衰退する兆があった。例えば John Dowens は著書, *Roscius Anglicans* (1708)において Robert Wilks の演技について記述し、フットボールを一種の不自然な大言荘語と称するものとして引用している。

観客を静まりかえらせ傾聴させる……私が空に舞いあがり、天翔りながらフットボールよろしく神々を蹴る時のように不自然にわめきたてる場合は別だが<sup>57)</sup>。

Richard Steel は1709年に *The Tatler* 誌に執筆し、近刊予定の天文学の著作を冷やかした中で天体物理学——この場合は太陽系の起源——がどのようにしたらもっと生き生きとして魅力的なものとなるかを例証しようとして、フットボール競技の観念を面白おかしく利用している。

下級の神々は、ある日フットボールの

ゲームをしようと思って無数の跳ねまわる原子をこねて7個の回転する球体に作りあげる。そして自然が怠けて不活発にならないように個々の微粒子は運動の原理、つまり引力を与えられそれによって物質の各部分はその大きさと距離に従って互いに相手を引き寄せあつて、実に多種多様な形態をとり、われわれが今帝国や哲学や宗教の中に認めるすべての素晴らしい外観を生み出すことになる。話を先に進めよう。競技の初めにそれぞれの球は巨大な力で打ち出され、見えなくなるまでとんでいき、無限の空間を真一文字にさすらって行った。敏捷な神々は息を切らせ、夢中になって追いかけている。各人が1つずつ球をつかまえて土星、木星、火星といった具合に自分の名前を刻みこんだ。将来はこのような不便のないように、その7個は落下する運命に置かれているが、それを我々は低級な文体では「重力」と呼んでいる。このようにして、接線力と求心力との拮抗により、天体は正確な楕円形を描きつつ運行するのである<sup>59)</sup>。

冷笑と崇高さのそのような比較は16世紀の聖職者や宗教作家によって最初に試みられてきた。

かつて流行したもう1つのフットボールの隠喩に極めてよく類似した巡り合わせが生じた。16世紀の間、刎ねられた生首がころがっているフットボールによく擬えられてきている。これが経験自体から直接引き出されたイメージである。しかし、18世紀には生首がころがっているフットボールにはそれ程、擬えられていない。生首をフットボールにたとえるのは、M. G. Lewisによる1797年12月14日に Drury Lane 劇場において上演されたゴシック劇、The Castle Spectre からの記録をもって終わる。さる召使いが、訪ねてきたかよつての傭い主の息子に Castle Spectre (幽霊城) における事態を知らせ、何よりも、「約60年前に反逆罪の宣告を受けた Hilderbrand 卿が每晚真夜中に大広間で自

分の生首をボール代りにフットボールをしている姿が見られるかもしれない。」<sup>59)</sup>と彼に語っている。

17世紀の間、フットボールはまだ、戦争の作品に登場していた。しかし、その役割はそこでは異っていた。生首の代りに球状砲弾が直喩の題材となってきた。作者不詳の The Soldier's Resolution (1671) では砲弾がフットボールにたとえられている。

祖国のために汗と血にまみれ、雄々しくも武器を携えて槍ふすまを突き破る勇士今ここに立つ。われこそはその勇士にして鳴り響くラッパの耳をつなぎく音を物ともせず、わが不吉なる星を足蹴にし、火に包まれたる砲弾をば霜の朝のフットボールのごとく恐ることなく蹴り返したり<sup>60)</sup>。

又、The Midship-man's Garland (c. 1685) においては、若い船乗りが恋人の Molly に次のように告げている。

ほんとのこと、俺の Molly ちゃんよ、お前の優しい愛のおかげで、天の神々が俺を危険から救ってくれたのさ。だって俺は大砲が轟々と咆えたけり、弾丸がフットボールのように岸からとんでくる所にいたんだから……。<sup>61)</sup>

こういった比較は18世紀以前にさえも廃れていた。一般的に、こういった比較は18世紀以前にさえも廃れていた。一般的に、フットボールの比喩的描写は、多分に、1750年を越しては継続しなかった。

14世紀から17世紀に渡る4世紀の文献においてフットボールが極めてよく言及されているが、その時代のフットボールのゲームのさし絵はほとんどなく、それを言語での描写で補完している。事実、14世紀と17世紀の間にはその時代を網羅するフットボールのゲームのさし絵はまったくない。これは驚くべきことであり、それについての説明は不可能である。17世紀とは18世紀の間でさえフットボールのゲームを示しているさし絵はほとんどない。Henry Peacham は、Graphice ; or the Most Ancient and



Plate 1. Football at Barnet, Herts, about 1750  
(Marples, A History of Football より)



Plate 2. Street football, early nineteenth century  
(Marples, A History of Football より)

Excellent Art of Drawing and Limning (1606)において風景画の1月にフットボールを採り入れるのが適していることを示唆している。

よってこのような冬の作品は、フットボール、樹木の伐採、氷すべりのようなあらゆる方法の作業や運動によって美化、麗化されるべきであると言いたい<sup>62)</sup>。

しかし、多くの芸術家は Peacham の助言に従わなかったようである。1683—4年の厳しい冬の期間の氷結したテムズ河を描写している版画では雌鶏投げ、牛いじめ、ボウリングそして九柱戯のような氷上で行う他の娯楽の間で付随的にフットボールのゲームが示されてある<sup>63)</sup>。18世紀におけるイングランドのフットボールのゲームのさし絵での描写は、Hertfordshire の Barnet のひとつの市場にある郵便局の外で、身なりのよい男性がフットボールのゲームらしきものを行っているのを示している1750年ぐらいの版画の1つだけであるとされている<sup>64)</sup> (Plate 1)。19世紀初期においてでさえフットボールのゲームのさし絵はない。Plate 2において示されているロンドンの Crowe Street での街路でのフットボールの木製の版画の例があるが、ここでのねらいは、写実主義というよりは戯画である。

芸術家が、特に17世紀と18世紀に極めてよく他の形態のスポーツから題材を得たことを考えると、フットボールのゲームの絵画がないのは驚くべきことである。The National Gallery of British Sports and Pastime (1949)にある最初の選出された600の絵画の目録の分析によると、17世紀と18世紀の絵画の106の作品が競馬で、23作品が狩猟、15作品が射撃である。他のかなりの数のスポーツ、つまり速歩き、疾走、鷹狩り、釣り、アーチェリー、牛いじめ、闘鶏、ボウリング、テニス、ゴルフそしてクリケットが、決して5作品以上であることはないが、それらの絵画が目録にある。これらのうちゲームについての絵画は、ボウリング、テニス、ゴルフ、そしてクリケットの4種であり、ゲームの1つ、

つまりクリケットだけが3作品ある。この理由は何であるか。これらのゲーム、特にフットボールのゲームが絵画で表現されるのに適切でないはずはない。例えば、クリケットのようにそれらのいくつかは19世紀に充分人気ある題材としてとり入れられており、フットボール自体は無数の書物や雑誌のさし絵とは別に、画家によって軽視されていない。従って、その理由は、17世紀と18世紀の芸術の擁護者、つまり裕福な、そして特に地所持ちの紳士階級はあまりゲームに関心を持たなかったか、フットボールにはまったく関心を示さなかったかではなければならない。事実、フットボールのゲームの絵画がないのは、大学におけるフットボールの衰退と同じ原因に帰することが可能である。フットボールは、あまりにも粗野で、疲労困憊級はフットボールを少年や身分の低い庶民に任せたのである。

#### 註及び引用・参考文献

- 1) G. H. Trevelyan, *England under the Stuarts* (ed. 1949), p. 216, quoted in Marples, *A History of Football*, 1954, p. 78. (原典: The defects of the Puritans survived with their qualities, and their sad Sabbath became the Englishman's Sunday. Even when the passions of the hour and the policy of the State were united to restore all things Anglican, the people did not choose to wake the very small effort that would then have sufficed to recover their day of pleasure and recreation, but continued to offer up to an ascetic ideal the weekly sacrifice of joys deliberately before.)
- 2) *Op. cit.*, sig. E. Ir, quoted in Magoun, *History of Football from the Beginnings to 1871*, p. 56. (原典: The Country-man howe'er was out, They box'd and box'd a second bout, Nor could all Art make him give out for won day, It was acknowledged 'fore 'ém all, That there was neither great nor small, Like him could wrest, or kick the Ball on Sunday ;)

- 3) N. Riding Rec. Soc. VI, 1888, p. 125, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 54.
- 4) N. Riding Rec. Soc. VI, 1888, p. 141, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 54.
- 5) William Andrew, *Old Church Lore*, 1891, p. 96, quoted in Magoun, p. 63. (原典：My charges with ye men taken playing at football in ye tyme of Devine servis to ye Justice……00. 01. 00.)
- 6) *Op. cit.*, No. 32, p. 191, col. 2, par. 3, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 65. (原典：They write from Eastlow, that at a neighbouring Village, on Sunday Seven-night, during the usual time of Devine Service, there happened such a violent Hurricane, that a great part of the Steeples of the Church was blown down ; which would have done very considerable Damage to the Parishioners had they been at Church : But they happened to be luckily at a Football Match, by which means their Lives were probably spared.)
- 7) *The History and Fate of Sacrilege*, 1853, p. 251, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 36. (原典：Sir Roger, the baronet, intending to build a goodly house at Raynham, and to fetch stone for the same from Coxford Abbey, by advice of Sir Nathaniel Bacon, his grandfather, began to demolish the church there, which till then was standing ; and beginning with the Steeple, the first stone (as it said) in the fall brake a man's leg, which somewhat amazed them ; yet contemning such advertisement, they proceeded in the work, and overthrowing the steeple, it fell upon a house near by, and breaking it down, slew in it one Mr. Seller, that lag lame in it of a broken leg, gotten at football, others having saved them selves by fright and flight.)
- 8) William Hutchinson, *The History of the County of Cumberland*, 1794, I, pp. 224-25, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 55. (原典：It was his constant practice, after Sunday afternoon prayers, to accompany the leading men of his parish to the adjoining ale-house, where each man spent a penny and only a penny : that done, he set the younger sort to play at foot-ball, (of which he was a great promoter) and other rustical diversions.)
- 9) William Chrystal, *The Kingdom of Kippen : Its History and Traditions*, 1903, pp. 121-123, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 95.
- 10) *Calendar of State Papers, Domestic Series*…… 1696 London, 1913, p. 258, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 59.
- 11) *Op. cit.*, p. 241, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 57.
- 12) *Op. cit.*, ed. 1724, p. 98, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 65.
- 13) *Op. cit.*, p. 138 et seq., quoted in Marples, *ibid.*, p. 81.
- 14) Polwhele, *Book. 3*, p. 53, quoting Borlase, pp. 299-301, quoted in Marples, *ibid.*, p. 82. (原典：A pastime that kindles emulation in the youngest breast and like this requires so general an exertion of all the faculties of the body, cannot but be of great use to supple, strengthen.)
- 15) Edward Chamberlayne, *Angliae Notitia, or the Present State of England* (ed. 1694), p. 52, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 58. (原典：The Natives will endure lond and hard Labour ; insomuch, that after twelve hours hard Work, they will go in the Evening to Football, Stool-ball, Cricket…….)
- 16) Edward Chamberlayne, *Magnae Britanniae Notitia ; or the Present State of Great Britain* (ed. 1708), p. 524, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 95.
- 17) Edward Chamberlayne, *Angliae Notitia ; or the Present of England*, (ed. 1669), p. 86, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 54. (原典：and for the Citizens Foot-ball, very uncivil, rude and barbarous, within the city.)
- 18) William Davenant, *The Dramatic Works* (ed. 1873), III, p. 221, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 53. (原典：I would now make a safe retreat, but that methinks I am stopt by one of your heroic games, call'd football, which I conceive—under your favor—not very conveniently civil in the Streets, especially in such irregular and narrow roads as Crooked Lane. Yet it argues your courage much like your military pastime of throwing at cocks.)
- 19) Henri Misson, *Memoires et observations faites par un voyageur en Angleterre*, p. 255, quoted in



- Magoun, *ibid.*, p. 50 (原典 : En Hyver le Foot-ball est un exercice utile et charmant : C'est un balon de cuir gros comme la tête et rempli de vent : cela se balotte avec le pied dans les rues, par celui qui le peut attraper : il n'y a point d'autre Science.)
- 20) E. Ritter (ed.), *Béat de Muralt, Letters sur les Anglais et les Français* (Bern, 1897), p. 46, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 59. (原典 : Quelque fois il (le peuple) se divertit d'une manière incommode, et où il y a d'insolence mêlée ; comme lorsqu'il pousse le ballon à coups de pieds par les rues, et se plaît à casser les vitres des maisons et les glaces des carrosses qu'il rencontre sur son chemin.)
- 21) H. Ballam and R. Lewis (eds.), *The Visitor's Book* (1950), p. 69, quoting from the letters of César de Saussure, quoted in Marples, *ibid.*, p. 83.
- 22) 秦 修司, 英国におけるフットボールの歴史に関する研究(3), 金沢大学教育学部紀要, 教育科学編, 1991年, pp. 269-270.
- 23) Watson (2), pp. 5-7, quoted in Marples, *ibid.*, p. 83.
- 24) *Ibid.*, quoted in Marples, *ibid.*, p. 83.
- 25) David Murray, *Early Burgh Organization in Scotland, I* (Glasgow 1924), p. 233, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 47.
- 26) Hist. MSS. Commission, *Report on MSS. in Varions* (Collections, V, (1909), pp. 43-44, quoted in Marples, *ibid.*, p. 84.
- 27) *Kelso Chronicle*, Feb. 29th, 1884, quoted in Marples, *ibid.*, p. 84.
- 28) J. Noake, *Worcester in Olden Times*, 1844, p. 197, quoting from *Worcester Municipal Records*, 1891, p. 54, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 67.
- 29) R. W. Gouldring, *Louth : Old Corporation Records*, 1891, p. 54, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 67.
- 30) *Ibid.*, pp. 58-59, quoted in Harples, *ibid.*, p. 84.
- 31) Magoun, *ibid.*, p. 123. quoting from *The Survey Commet*, March 9th, 1867. (原典 : To take into consideration the annual custom of the game of Football as played in the public thorough fares in the Borough ou Shrove Tuesday, and to adopt such measures as may be deemed expedient on the subject)
- 32) Magoun, *ibid.*, p. 123, quoting from *The Surrey commet*, March 9th, 1867. (原典 : Notice is hereby given that the Corporation having provided a suitable recreation ground, the game of Football will not be permitted to be played on Shrove Tuesday in the public thorough fares of the Borough, and the police have strict orders to carry this into effect.)
- 33) 騒擾取締法 : 1715年に公布された英国の法律 ; 12人以上の者が騒擾を目的として集会を催した場合, この法令を読みあげ解散を命じ, 応じない者は重罪に処した。
- 34) Willam Marrat, *The History of Lincholnshire, Topographical, Historical and Descriptive, I* (1814), pp. 140-141, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 68. (原典 : July 1st, the insurgents, consisting of about two hundred meh, threw up a foot-ball in the fen, and played for about two hours, when a troop of dragoons, some gentlemen from Boston, and four constables having seized four or five of the rioters, committed them to Spalding Goal. Dr. Shaw, of Wyberton, set three women, rioters, at liberty, and the men were admitted to bail. On the 15th another ball was thrown up, and no person opposed them……. On the 29th, another ball was thrown up without opposition.)
- 35) *The Spectator*, No. 161, Sept. 4th, (ed. 1973), p. 486 (原典 : I was diverted from a further observation of these Combatants (cudgel-players), by a Foot-ball Match which was on the other side of the Green : where Tom Short behaved himself sowell, that most People seemed to agree it was impossible that he should remain a Bathchelour till the next Wake. Having played many a Match my self, I could have looked longer on this Sport.)
- 36) Joseph W. Ebsworth ed., *The Bagford Ballads* (for the Ballad Society, Hertford, 1875), I, p. 449, 452, quoted in Magoun, *ibid.*, pp. 56-57. (原典 : At pleasant sports and Foot-ball play, They will be blyth and jolly, Their money they will freely lay, and cast off melancholly.)

- 37) Westminster Drolleries, Mock Songs and Joking Poems, All Novel (1675), pt. i, p. 28, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 56. (原典：Thus all our life long we are frolick and gay, And instead of Court revels, we merrily play At Trap, at Rules, and at Barly-break run : At Golf, and at Foot-ball, and when we have done These innocent sports, we'll laugh and lie down.)
- 38) 秦 修司, 英国におけるフットボールの歴史に関する研究(6), 金沢大学教育学部紀要, 教育科学編, 1994, pp. 129-130.
- 39) Andrew Clark (ed.), *The Life and Times of Anthony Wood* (1891), II, p. 97, note 6, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 72.
- 40) *The Fifth Annual Report of the Royal Commission of Historical Manuscripts, Pt. I* (London 1876), Appendix, p. 483, col. 2., quoted in Magoun, pp. 77-78. (原典：Whereas of late years divers vitious and disorderly customes have by the petulancy and presumption of some looser schollers been introduced into this College……(it is ordered)……that no schollers give or receive at any time any treat or collation upon account of ye football play, on or about Michaelmas Day (September 29), further then College beere or ale in ye open hall to quench their thirsts. And particularly, that ye most vile custome of drinking and spending money, Sophisters and Freshmen together, upon ye account of making or not making a speech at ye foot-ball time, be utterly left off and extinguished.)
- 41) *Poems by the late Edward Lysaght Esq.* (Dublin, 1811), pp. 90-91, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 78. (原典：At the time when Ned Lysaught was in Trinity College (ca, 1780), the fellow-commoners considered themselves as superior beings to the pensioners ; and, of course, they were above taking any part in the amusement of foot-ball, which was then played, every evening, in the college park. It so happened, that a pensioner, whose Name was C-lf-ld, had been vain enough to associate entirely with the fellow-commoners, and, of course, never deigned to play at foot-ball, until one evening, when he accidently condescended to do so ; scarcely had he made the attempt, when some of his fellow students (pensioners), indignant of his past folly, soon tripped up his heels, to the no small gratification of the whole assemblage then present, but to the mortification of C-lf-ld and his companions.)
- 42) *Ibid.* (原典：Dear C-lf-ld, play football no more, I entreat ; The amusement's too vulgar, fatiguing and rough : Pursue the same conduct you've followed of late, And I warrant, ere long, you'll get kicking enough.)
- 43) 秦 修司, 英国におけるフットボールの歴史に関する研究(6), 金沢大学教育学部紀要, 教育科学編, 第43号, 1994, p. 128.
- 44) *The Spectator*, No. 432, July 16, ed., 1979 pp. 338-339. (原典：In Parishes and Schools the Thirst of Glory still obtains. At the seasons of Football and Cockfighting these little Republicks reassume their national Hatred to each other.)
- 45) *Op. cit.*, lines 28-30, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 79.
- 46) H. C. Maxwell-Lyte, *A History of Eton College : 1440-1910*, 1911, pp. 318-319, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 79.
- 47) *Ibid.*, p. 320, quoted in Magoun, *ibid.*, pp. 79-80.
- 48) *Ibid.*, p. 487, quoted in Magoun, *ibid.*, pp. 280-84.
- 49) W. H. D. Rouse, *A History of Rugby School*, 1898, p. 217, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 84.
- 50) Sir F. Pollack, *Reminiscences and Selections from Diaries and Letters of W. C. Maccready* (N. Y., 1875), II., quoted in Magoun, *ibid.*, p. 84.
- 51) Robert Southey (ed.), *The Works of William Cowper Esq.*, IV (1836), p. 102, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 83. (原典：When I was a boy, I excelled at cricket and football, but the fame I acquired by achievements in that way it long since forgotten, and I do not know that I have made a figure in any thing since.)
- 52) Alexander Hag Tod, *Charterhouse*, 1900, pp. 155f, quoted in Marples, *ibid.*, p. 89.
- 53) A Letter from Dr. Robert Wild to his Friend Mr. J.J. Upon Occasion of his Majesty's Declaration for Liberty of Conscience, 1672, quoted in Magoun, p. 55. (原典：Let but the King (God bless him) allow us our Bibles, and we have 100,000

Shop-Keepers and Farmers (and let our Ministers stand by and keep our Gole, and strike never a stroke) that dare meet as many of their Fryars and Monks at a Disputation, and let any point (for which formerly they made Smithfield smoak) that they will chuse, be the Foot-ball.)

- 54) Op. cit., March, 1735, p. 151, col. I, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 66. (原典: When rivers are with sudden ice constrain'd, And studded wheels are on their backs sustain'd; A place for cat or foot-ball, which before, Tall ships of burden on their bosom bore; It's then the swains defy their fellow swains, To sport at football on the ample plains; In form of battle drawn they issue forth, And ev'ry one is proud to shew his worth; With shouts the coward's courage they excite, And warlike clangors call them out to fight: Then to the common standard they repair, The nimble foot-ball scours the fields of air; They kick, they push, and pushing loudly cry, And their hoarse shouting rends the vaulted sky……As a ship on a rough sea: Juot so the well-cas'd foot-ball upward tends, Then on a sudden to the ground descends; That long the doubtful combat they maintain, Till one prevails, for only one can reign. The victory being got, they all retire, Secure from cold, and croud the chearful fire. Now learn the emblem which the foot-ball brings which shows the certain change of earthly things, And strange ricissitudes of human fate……So the swift foot-ball, with a whizzing sound, Now mounts in air, now rolls along the ground: Thro' many changes variously she tends, Till what was nothing in a nothing ends.)
- 55) Land and Water, V, 1868, p. 103, quoted in Magoun, *ibid.*, pp. 63-64. (原典: Ye Champions of fair Lusk, and Ye of Soards, View well this Ball, the present of your Lords. To outward View, three Folds of Bullocks-Hide, With Leathern Thoughts fast bound on ev'ry side: A Mass of finest Hay conceal'd from sight, Conspire at once, to make it firm and light, At this you'll all contend, this bravely strive, Alternate tho' the adverse Goal to drive, Two Gates of Sally bound
- the Spacious Green, Here one, and one on yonder Side is seen. Guard that Ye Men of Soards Ye others this, Fame waits the careful, Scandal the remiss; He said, and high in Air he flung the Ball, The Champions Crowd, and anxious wait its fall. First Felim caught, he pois'd and felt it soft, Then Whirl'd it with a sudden stroke aloft. With Motion smooth and swift he saw it glide, Till Dick who stop'd it on the other side. A Dextrous Kick with Artful fury drew, The light Machine with force unerring flew, To th'adverse Goal; where in the sight of all, The watchful Daniel caught the flying Ball, He proudly joyful in his Arms embrac'd, The welcome Prize; then ran with eager haste. With lusty Strides he measur'd half the Plain, When all his Foes surround and stop the Swain; They Tugg, they Pull, to his assistance run, The Strong Limb'd Darby, and the Nimble John. Paddy with more than common ardor fir'd Outsingl'd Daniel, while the rest retir'd, At grapp'ling now their mutual Skill they Try, Now Arm in Arm they lock, and Thigh in Thigh. Now turn, now twine, now with a furious bound, Each lifts his fierce Opposer from the Ground. Till FLORA who perceiv'd the dire debate, Anxious and trembling for her Darling's fate; Round Daniel's Leg, (unseen by human Eyes) Nine Blades of Grass, with artful Texture ties: From what slight causes rise, our Joy or Grief, Pleasure or Pain, Affliction or Relief? Th' entangled Youth, but faintly seems to stand, Bound by one Leg, Incumber'd in one hand; For yet he held, nor till his hapless fall, Dropt from his Arms, the long contended Ball.)
- 56) John Playford, *The Musical Companion*, 1673, Additional Sheet 5, 'A Catch by Mr. C. H.', quoted in Magoun, *ibid.*, p. 55. (原典: Now happily wet, let's cast away Care, and each Man unto Mirth himself prepare; let all that are Plotters be kick'd like a Ball, and trumbling down, break their Necks in the ball; While we who are Loyal do pray for our King, That long he way veign, in Peace and Plenty, let's sing.)
- 57) Montague Summers ed., John Dowkes, Roscius

- Anglicans, 1927, p. 51, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 61. (原典：Attracting attentive silence in his Audience……except where there are Unnatural Rants, As,……I'll mount the Sky, And kick the Gods like Foot-balls, as I fly.)
- 58) George A. Aitkin ed., *The Tatler*, 1898, I, pp. 350-351, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 62. (原典：The inferior deities having designed on a day to play a game at football, knead together a numberless collection of dancing atoms into the form of seven rolling globes ; and that nature might be kept from a dull inactivity, each separate particle is endued with a principle of motion, or a power of attraction, whereby all the several parcels of matter draw each other proportionately to their magnitudes and distances, into such a remarkable variety of different forms, as to produce all the wonderfal appearances we now observe in empire, philosophy, and religion. To proceed ; at the beginning of the game, each of the globes being struck forward with a vast violence, ran out of sight, and wandered in a straight line through the infinite spaces. The nimble deities pursue, breathless almost, and spent in the eager chase ; each of them caught hold of one, and stamped it with his name ; as Saturn, Jupiter, Mars, and so of the rest. To prevent this inconvenience for the future, the seven are codemned to a precipitation, which in our inferior style we call 'gravity', Thus the tangential and centripetal forces, by their counter-struggle, make the celestial bodies describe an exact ellipsis.)
- 59) *Op. cit.*, 1798, Act II, Scene i, p. 23, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 69. (原典：Lord Hildebrand, who was condemned for treason some sixty years ago, may be seen in the Great Hall, regularly at midnight, playing at foot-ball with his own head.)
- 60) Joseph Ebsworth, ed., *Westminster Drolleries*, both Parts, of 1672 1875 Pt. i (1st ed., 1671), pp. 57-58, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 54. (原典：Here stands the man that for his Countreys good. Has with couragious Arms in sweet and blood. Ran through an Host of Pikes ; He, he I was Out-dar'd the Thunder of the roaring Brass, Kickt my black Stars, spurn'd Balls of the fire with scorn Like to a Foot-ball in a frosty morn.)
- 61) Joseph W. Ebsworth ed., *The Bagford Ballads*, 1878, I, pp. 108, 113, quoted in Magoun, *ibid.*, p. 57. (原典：Indeed, my dear Molly, the Powers above, Preserv'd me from dangers for thy tender love, For I have been where thundering Cannons did roar, Their Bullets like Footballs flying from the shoar…….)
- 62) *Op. cit.*, Bk, i, chap. xii, ed., 1612, pp. 44-45, quoted in Magoun, P. 32. (原典：Wherefore I sag such a winter peece should be graced and beautified with all manner of workes and exercises of winter, as football, felling of wood, sliding upon the yce……etc.)
- 63) Reproduced by Andrews (I), quoted in Marples, *ibid.*, p. 93.
- 64) Reproduced by Magoun, facing 66 : noted in the *Victoria History of the Counties of England : Hertfordshire* (Westminster, 1902), I, 381 (dated ca. 1770), quoted in Marples, *ibid.*, p. 93. なお、2), 5), 6), 7), 8), 15), 18), 19), 20), 31), 32), 34), 35), 36), 37), 40), 41), 42), 53), 54), 56), 57), 58), 60), 61), 62)の翻訳にあたっては、F. P. マグーン Jr. 著、忍足欣四郎訳、フットボールの社会史、岩波新書、1985を使用した。